

## 改正入管法が施行

# 「日本で長く働きたい」

## 新資格に実習生ら意欲

4月1日スタートの外国人就労拡大制度。新たな在留資格には、試験に合格して来日する外国人だけでなく、日本で働いている技能実習生も多数移行する見通しだ。長時間労働や低賃金など劣悪な労働環境が問題となった一方、日本社会になじみ、新資格への移行を

目指す実習生も多い。「できるだけ長く日本で働きたい」と話すベトナム人男性のグエン・バン・カイさん(20)もその一人だ。

カイさんは昨年1月に来日。大阪府茨木市の「エー」で建設一で、主に住宅の内装工事に従事している。ベトナムでは果物販売を

「厳しい指導も親切から

だと思つ」と、周囲に感謝す

丸山栄介社長(36)も「とにかく真面目で必死に働いてくれる。今では非常に貴重な戦力」と頼りにしている。人手不足が深刻な建設業界。求人しても空振りも多く、ようやく日本人を雇つても長続きしないなど、悩みは尽きない。「仕事の発注があつても、人手が足りなくて受注できないという実情がある」という丸山社長は新制度を歓迎する。受け入れる側の姿勢も重要と考えたエース建設は、グループ会社と協力して実習生をサポート。大阪府内

に「軒家を寮として用意し、日本語の勉強会も開い

ている。今はカイさんを含むベトナム人3人のほか、寮長役の日本人社員も同居し、不慣れな地での生活を支える。

カイさんの給与は、日本人と同水準で、ベトナムにいた時の月給約3万円を大きく上回る。毎月約10万円をベトナムに送り、両親らの生活に欠かせなくなつて

カイさんは会員制交流サイト(SNS)などで、日本にいるベトナム人の友人と日々情報交換しており、外国人就労拡大の新制度のことも知った。「優しい人が多くて町もきれい。住みやすい日本にできるだけ長くいたい」。実習期間を終えるのは2021年1月。その後、新資格に移ることを考えている。



寮の自室で日本語の勉強をするグエン・バン・カイさん=2月、大阪府内

優しい人多い。日本で長く働きたい

4月1日スタートの外国人就労拡大制度。新たな在留資格には、試験に合格して来日する外国人だけでなく、日本で働いている技能実習生も多数移行する見通しだ。長時間労働や低賃金など劣悪な労働環境が問題となつた一方、日本社会になじみ、新資格への移行を目指す実習生も多い。「できるだけ長く日本で働きたい」と話すベトナム人男性のグエン・バン・カイさん(20)もその一人だ。

カイさんは昨年1月に来日。大阪府茨木市の「エース建設」で、主に住宅の内装工事に従事している。ベトナムでは果物販売をしていたといい、建築の世界は初めて。当初は親方から厳しい叱責を受けてきたが、徐々に仕事に慣れ、日常会話に困ることもほとんどなくなった。「厳しい指導も親切からだ」と思うと、周囲に感謝するカイさん。エース建設の丸山栄介社長(39)も「とにかく真面目で必死に働いてくれる。今では非常に貴重な戦力」と頼りにしている。

## 外国人就労拡大 実習生、新資格に意欲



寮の自室で日本語の勉強をするグエン・バン・カイさん＝2月、大阪府内

人手不足が深刻な建設業界。求人しても空振りが多く、よやく日本人を雇つても長続きしないなど、悩みは尽きない。「仕事の発注があつても、人手が足りなくて受注できないという実情がある」という丸山社長は新制度を歓迎する。受け入れる側の姿勢も重要と考へたエース建設は、グループ会社と協力して実習生をサポート。大阪府内に一軒家を寮として用意し、日本語の勉強会も開いている。今はカイさんを含むベトナム人のほか、寮長役の日本人社員も同居し、不慣れな地での生活を支える。

カイさんの給与は、日本人と同水準で、ベトナムにいた時の月給約3万円を大きく上回る。毎月約10万円をベトナムに送り、両親の生活に欠かせなくなっている。カイさんは全員制交流サイト(SNS)などで、日本にいたベトナム人の友人と日々情報交換しており、外国人就労拡大の新制度のことも知った。「優しい人が多くて町もきれい。住みやすい日本にできれば長い

改正入籍法施行で、日本の外国人受け入れ政策は大きな節目を迎えた。日本で暮らす外国人は一層増え、社会の在り方が変わっていく可能性もある。一方で、懸念されていた通り、準備は十分にとおらず、しわ寄せが外国人や自治体にのしかかる懸念は拭えない。昨年12月の改正法成立以降、法務省などは新制度の詳細を定める政省令や運用要領の整備、自治体や企業などへの説明会を急ピッチで進めた。しかし、開始直前の周知で、検討時間が十分にあるはずもなく、自治体の態勢整備は遅れている。説明会では会場からの質問に、政府側が答えに窮する場面もあった。

### 受け入れ態勢は不十分

新制度に取り込まれる技能実習生を巡っても、法務省が3月20日に公表した調査結果から、技能を伝えるという国際貢献の面目とは裏腹に、安価な労働力として酷使してきた実態が改めて浮き彫りになった。4月開始ありきで強引に議論を進め、これら多くの課題を積み残したまま、見切り発車した政府の責任は重い。「共生社会の実現」という理念を看板倒れにしないためには、国民の理解浸透とともに、外国人や自治体への手厚い支援を欠かさないことが政府に求められる。

「優しい人が多い。日本で長く働きたい」。実習期間を終えた時の月給約3万円を大きく上回る。毎月約10万円をベトナムに送り、両親の生活に欠かせなくなっている。

カイさんは全員制交流サイト(SNS)などで、日本にいたベトナム人の友人と日々情報交換しており、外国人就労拡大の新制度のことも知った。「優しい人が多くて町もきれい。住みやすい日本にできれば長い

# 「長く日本で働きたい」

## 外国人就労拡大 新資格望む実習生

4月1日スタートの外国  
人  
就  
労  
拡  
大  
制  
度  
。新  
た  
な  
在  
留  
資  
格  
に  
は、試  
験  
に  
合  
格  
し  
て  
来  
日  
す  
る  
外  
国  
人  
だ  
け  
で  
な  
く、日  
本  
で  
働  
い  
て  
い  
る  
技  
能  
実  
習  
生  
も  
多  
数  
移  
行  
す  
る  
見  
通  
し  
だ。長  
時  
間  
労  
働  
や  
低  
賃  
金  
な  
ど  
劣  
悪  
な  
労  
働  
環  
境  
が  
問  
題  
と  
な  
っ  
た  
一  
方、日  
本  
社  
会  
に  
な  
じ  
み、新  
資  
格  
へ  
の  
移  
行  
を  
目  
指  
す  
実  
習  
生  
も  
多  
い。「で

日。大阪府茨木市の「エー  
ス建設」で、主に住宅の内  
装工事に従事している。  
ベトナムでは果物販売を  
していたといい、建築の世  
界は初めて。当初は親方が  
ら厳しい叱責を受けてきた  
が、徐々に仕事に慣れ、日  
常会話に困ることもほとん  
どなくなった。  
「厳しい指導も親切から  
だと思つ」と、周囲に感謝す  
るカイさん。エース建設  
の丸山栄介社長(36)も「と  
にかく真面目で必死に働い  
てくれる。今では非常に貴  
重な戦力」と頼りにしてい

ている。今はカイさんを言  
むベトナム人3人のほか、  
寮長役の日本人社員も同居  
し、不慣れな地での生活を  
支える。  
カイさんの給与は、日本  
人と同水準で、ベトナムに  
いた時の月給約3万円を大  
きく上回る。毎月約10万円  
をベトナムに送り、両親ら

の生活に欠かせなくなつて  
いる。  
カイさんは会員制交流サ  
イト(SNS)などで、日  
本にいたベトナム人の友人  
と日々情報交換しており、  
外国人就労拡大の新制度の  
ことも知った。「優しい人  
が多くて町もきれい。住み  
やすい日本にできるだけ長

くいたい」。実習期間を終  
えるのは2021年1月。  
その後、新資格に移ること  
を考えている。

きるだけ長く日本で働きた  
い」と話すベトナム人男性  
のケン・パン・カイさん  
(20)もその1人だ。

(1面関連)

カイさんは昨年1月に来

る。人手不足が深刻な建設業  
界。求人しても空振りが多  
く、ようやく日本人を雇  
うても長続きしないなど、  
悩みは尽きない。「仕事の  
発注があっても、人手が  
足りなくて受注できないと  
いう実情がある」という丸  
山社長は新制度を歓迎す  
る。  
受け入れる側の姿勢も重  
要と考えたエース建設は、  
グループ会社と協力して実  
習生をサポート。大阪府内  
に一軒家を寮として用意  
し、日本語の勉強会も開い

る。受け入れる側の姿勢も重  
要と考えたエース建設は、  
グループ会社と協力して実  
習生をサポート。大阪府内  
に一軒家を寮として用意  
し、日本語の勉強会も開い

# 「できるだけ長く日本で」



寮で一緒に暮らすベトナム人の技能実習生と夕食の準備をするグエン・バン・カイさん(手前)＝2月、大阪府内

## 外国人就労拡大制度 きょうから

1日スタートの外国人就労拡大制度。新たな在留資格には、試験に合格して来日する外国人だけでなく、日本で働いている技能実習生も多数移行する見通しだ。長時間労働や低賃金など劣悪な労働環境が問題となった一方、日本社会になじみ、新資格への移行を目指す実習生も多い。「できるだけ長く日本で働きたい」と話すベトナム人男性のグエン・バン・カイさん(20)もその一人だ。(3面参照)

カイさんは昨年1月に来日。大阪府茨木市の「エース建設」で、主に住宅の内装工事に従事している。ベトナムでは果物販

## 在留中の実習生 新資格移行に意欲

売をしていたといい、建築の業界は初めて。当初は親方から厳しい叱責(しっせき)を受けてきたが、徐々に仕事に慣れ、日常会話に困ることもほとんどなくなった。

「厳しい指導も親切からだと思つ」と、周囲に感謝するカイさん。エース建設の丸山栄介社長(36)も「とにかく真面目で必死に働いてくれる。今では非常に貴重な戦力」と頼りにしている。

## 人手確保期待 施策続々 各自治体

外国人労働者の受け入れを拡大する新制度に関連し、各都道府県は相談窓口整備や留学生への奨学金の支給といった支援策をスタートさせる。生活環境を整え、介護や農業・漁業分野を中心とする深刻な人手不足の解消につなげたい考えだ。

政府が全国100カ所の設置を目指す一元的な相談窓口「ワンストップセンター」は、愛媛など34府県が2018年度補正予算や19年度当初予算に開設や運営のための経費を計上した。これとは別に栃木、新潟、香川は外国人受け入れのノウハウがない企業向けの相談窓口を設け、採用方法や在留資格手続き、雇用保険について助言する。

## 奨学金や免許取得費…

千葉や神奈川県は、介護施設での就職を希望する留学生を対象に、日本語学校の学費や家賃の一部を負担。山形は県内企業への就職を希望することを条件に、月額2万円の奨学金を支給する。

茨城は、農家で働く外国人が自動車免許や大型特殊免許を取得する際の費用を補助。長崎は友好関係があるベトナムの自治体と連携し、製造業や介護の人材を安定して確保できる体制をつくる。

外国語への対応では、愛知や島根は日本語が不自由な外国人の児童生徒を指導できる教員を増やす。鳥取は多言語を翻訳できるタブレット端末の医療機関への配備を進める。

人手不足が深刻な建設業界。求人としても空振りが多く、ようやく日本人を雇っても長続きしないなど、悩みは尽きない。

「仕事の発注があっても、人手が足りなくて受注できないという実情がある」という丸山社長は新制度を歓迎する。

受け入れる側の姿勢も重要と考えたエース建設は、グループ会社と協力して実習生をサポート。大阪府内に一軒家を寮として用意し、日本語の勉強会も開いている。今はカイさんを含むベトナム人3人のほか、寮長役の日本人社員も同居し、不慣れな地での生活を支える。

カイさんの給与は、日本人と同水準で、ベトナムにいた時の月給約3万円を大きく上回る。毎月約10万円をベトナムに送り、両親らの生活に欠かせなくなっている。

カイさんは会員制交流サイト(SNS)などで、日本にいるベトナム人の友人と日々情報交換しており、外国人就労拡大の新制度のことも知った。

「優しい人が多くて町もきれいで、住みやすい日本にできるだけ長くいたい」。実習期間を終えるのは2021年1月。その後、新資格に移ることを考えている。

4月1日スタートの外国人就労拡大制度。新たな在留資格には、試験に合格して来日する外国人だけでなく、日本で働いている技能実習生も多数移行する見通しだ。長時間労働や低賃金など劣悪な労働環境が問題となった一方、日本社会になじみ、新資格への移行を目指す実習生も多い。「できるだけ長く日本で働きたい」と話すベトナム人男性のグエン・パン・カイさん(20)もその1人だ。

▼1面参照

# 「日本で長く働きたい」

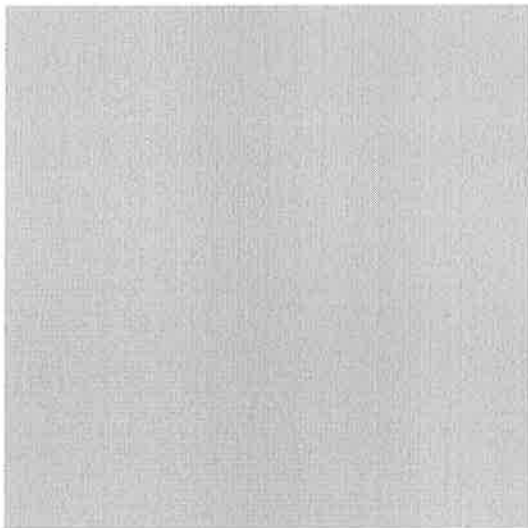
## 外国人就労拡大制度

ベトナムでは果物販売をしていたといい、建築の世界は初めて。当初は親方から厳しい叱責を受けてきたが、徐々に仕事に慣れ、日常会話に困ることもほとんどなくなつた。

「厳しい指導も親切からだと思う」と、周囲に感謝するカイさん。エース建設の丸山栄介社長(36)も「とにかく真面目で必死に働いてくれる。今では非常に貴重な戦力」と頼りにしている。

人手不足が深刻な建設業界。求人しても空振りが多く、ようやく日本人を雇っても長

## 技能実習生 新資格に意欲



続きしないなど、悩みは尽きない。「仕事の発注があつても、人手が足りなくて受注できない」という実情がある」という丸山社長は新制度を歓迎する。受け入れる側の姿勢

も重要と考えたエース建設は、グループ会社と協力して実習生をサポート。大阪府内に一軒家を寮として用意し、日本語の勉強会も開いている。今はカイさんを含むベトナム人3人のほか、日本人社員も同居し、不慣れな地での生活を支える。

カイさんの給与は、日本人と同水準で、ベトナムにいた時の月給約3万円を大きく上回る。毎月約10万円をベトナムに送り、両親らの生活に欠かせなくなっている。

カイさんは会員制交流サイト(SNS)などで、日本にいるベトナム人の友人と日々情報交換しており、外国人就労拡大の新制度のことも知った。「優しい人が多くて町もきれいで、住みやすい日本にできるだけ長くいたい」。実習期間を終えるのは2021年1月。その後、新資格に移ることを考えている。

### 識者談話

#### 家族帯同認めよ

国土館大の鈴木江理子教授(移民政策)の話 政府は「特定技能1号」の外国人の在留期間を限定し、家族帯同も認めないこととした。労働力という商品とみなし、人間として受け入れることに向き

合っていない。実際に転職できるのか、賃金水準その他の要件が適切であるかを検証し、「1号」でも家族帯同を認めるよう見直すべきだ。入居や就職の差別、子どもの不就学など外国人を巡る課題は多様であり、総合的対応策にとどまらず、外国人が安定的に生活できるよう、国の責任ある取り組みを望みたい。



# 「日本で長く働きたい」

## 外国人実習生 新資格に意欲



寮の自室で日本語の勉強をするグエン・パン・カイさん=2月、大阪府内

4月1日スタートの外国「留資格には、試験に合格し  
人 就労拡大制度。新たな在りて来日する外国人だけにな

く、日本で働いている技能実習生も多数移行する見通しだ。長時間労働や低賃金など劣悪な労働環境が問題となった一方、日本社会になじみ、新資格への移行を目指す実習生も多い。「できるだけ長く日本で働きたい」と話すベトナム人男性のグエン・パン・カイさん

(20)もその1人だ。

(1面参照)

カイさんは昨年1月に来日。大阪府茨木市の「エース建設」で、主に住宅の内装工事に従事している。

ベトナムでは果物販売をしてきたといい、建築の世界は初めて。当初は親方から厳しい叱責を受けてきたが、徐々に仕事に慣れ、日常会話に困ることもほとんどなくなった。

「厳しい指導も親切からだと思う」と、周囲に感謝するカイさん。エース建設の丸山栄介社長(36)も「とにかく真面目で必死に働いてくれる。今では非常に重

な戦力」と頼りにしている。

人手不足が深刻な建設業

界。求人しても空振りが多く、ようやく日本人を雇っても長続きしないなど、悩みは尽きない。「仕事の発注があっても、人手が足りなくて受注できないという実情がある」という丸山社長は新制度を歓迎する。

受け入れる側の姿勢も重要と考えたエース建設は、グループ会社と協力して実習生をサポート。大阪府内に一軒家を寮として用意し、日本語の勉強会も開いている。今はカイさんを含

むベトナム人3人のほか、寮長役の日本人社員も同居し、不慣れな地での生活を支える。

カイさんの給与は日本人と同水準で、ベトナムにいた時の月給約3万円を大きく上回る。毎月約10万円をベトナムに送り、両親の生活に欠かせなくなっている。

カイさんは会員制交流サイトを

イト(SNS)などで、日本にいるベトナム人の友人と日々情報交換しており、外国人就労拡大の新制度のことも知った。「優しい人が多くて町もきれい。住みやすい日本にできるだけ長くいたい」。実習期間を終えるのは2021年1月。

その後、新資格に移ることを考えている。